

初産牛の泌乳前期において飼料中CP16%でも産乳・繁殖性は良好

福島県農業総合センター 畜産研究所
平成19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

畜産 - 乳用牛 - 畜産繁殖、畜産栄養、畜産産乳能力
分類コード 07-01-38394400

2 担当者

山本みどり

3 要旨

ホルスタイン種初産牛の泌乳前期における飼料中蛋白質含量が分娩後の産乳、繁殖成績に及ぼす影響を検討した。(全国9ヶ所の研究機関における協定試験)

- (1) ホルスタイン種初妊牛58頭を用い、分娩予定日の42日前から分娩後116日までの飼養試験を行った。繁殖成績は分娩後144日目まで調査した。
- (2) 供試牛には分娩日まで同一飼料を給与し、泌乳前期の給与飼料は乾物中粗蛋白質含量が18%[高CP区]と16%[中CP区]の2試験区を設定した。飼料の乾物中のTDN含量は、両区とも76%程度とした。
- (3) 乾物摂取量は両区に差は見られなかった。
- (4) 産乳成績は乳量、乳脂率、乳蛋白質率および無脂固体分率には両区に差は認められなかったが、乳中尿素態窒素濃度は高CP区が高く推移する傾向が見られた。
- (5) 血液性状では尿素態窒素濃度が、第一胃液性状ではアンモニア態窒素濃度が高CP区において高く推移する傾向が見られた。
- (6) 繁殖成績は両区に差は見られなかった。
- (7) 以上より、乾物中粗蛋白質含量が経産牛と同レベルの16%でも、初産牛の産乳および繁殖成績は遜色がないと考えられる。

4 その他の資料等

なし